

令和2年駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会会議録

令和2年12月 9日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時27分

○会議に付した事件

1. 観光インフォメーションセンターの入込状況等について
 2. ロングランイベントについて
 3. 地域DMO本登録に向けた取組状況について
 4. 民間活力ゾーンの検討状況について
 5. その他
-

○出席委員（13名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	久保一美君	委員	佐藤雄大君
委員	貳又聖規君	委員	西田祐子君
委員	前田博之君	委員	大淵紀夫君
委員	吉谷一孝君	委員	小西秀延君
委員	及川保君	委員	長谷川かおり君
委員	氏家裕治君	議長	松田謙吾君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

町 長	戸田安彦君
副 町 長	竹田敏雄君
副 町 長	古俣博之君
経済振興課長	富川英孝君
企画課長	工藤智寿君
アイヌ総合政策課長	笹山学君
経済振興課参事	臼杵誠君
経済振興課主幹	鶴沢友寿君
経済振興課主幹	太田誠君
企画課主幹	喜尾盛頭君
アイヌ総合政策課主査	江草佳和君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	高橋裕明君
主査	小野寺修男君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより、駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（広地紀彰君） 本日の委員会の日程等についてであります。

調査事項は、1項目め、観光インフォメーションセンターの入込状況等について、2項目め、ロングランイベントについて、3項目め、地域DMO本登録に向けた取組状況について、4項目め、民間活力ゾーンの検討状況について、5項目め、その他についてであります。

このことについて町側から説明を受けて質疑を行います。

よって本日の会議は1日間といたします。ご意義ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 異議なしと認めます。

それでは、一括して町側から説明をお願いします。

まず、1項目めの観光インフォメーションセンターの入込状況等について説明を求めます。

戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 先に、本特別委員会の開催に当たりご挨拶を申し上げたいと思います。

民族共生象徴空間ウポポイについては、7月12日の開業以降、コロナ禍の中ではありますが、入場制限などコロナ対策を徹底し、教育旅行の受入れなど、本日まで確実に歩みを進めております。本町においても、ウポポイの開業を契機に飲食店を中心に新規創業者の進出が増えてきており、これらにアイヌ文化や食資源など本町の既存の観光資源の魅力向上を図り、有機的な連携を図りながら受入環境体制の整備を推進いたします。また、ウポポイの開業効果を町内全体に波及させ、観光を主軸とした地域産業の活性化に努め、交流人口の拡大を図り何度も訪れたくなるまちを構築していきたいと考えております。現下の新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束を願うとともに、国内外の観光客が安心して観光を楽しむことができるよう、感染拡大防止の対策を取りつつ、観光振興に取り組む所存であります。

本日は、担当より現在の進捗状況等を中心にご説明をさせていただきますが、議員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

○委員長（広地紀彰君） それでは、続いて説明を求めます。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今日はお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会、本日調査事項といたしまして、1項目め、観光インフォメーションセンターの入込状況等について、2項目め、ロングランイベントについて、

（1）、白老町主催事業について、（2）、北海道主催事業について、3項目め、地域DMO本登録に向けた取組状況について、4項目め、民間活力ゾーンの検討状況について、5項目め、その他とい

うことで予定してまいりたいと思います。この後、担当から説明させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 調査項目1、観光インフォメーションセンターの入込状況等について、資料1に沿って説明いたします。観光インフォメーションセンターについては、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、4月1日から段階的に営業を開始し、7月4日から通常営業をスタートさせました。7月12日のウポポイ開業及びロングランイベントの開催に伴い来場者数も大幅に伸び、10月18日の日曜日には10万人の来場を達成しました。10月10日には大型遊具も完成し、ふわふわドーム、クリフクライマーも完成して、今年度は10月末までということで短い開放期間ではございましたが多くの親子連れで賑わいが創出されました。

続いて来場者数でございます。11月末までで合計207日間、11万7,791人の来場があり、1日平均にすると569人となっております。参考までにウポポイの入場者数が11月末現在で18万574人となっておりますので、約半数以上は立ち寄っていただけたのかと感じております。続きまして、観光案内の利用客数でございます。11月末現在で合計6,372人でございます。内訳は記載のとおりとなっております。問合せで多くあったのはやはりウポポイの事前予約の方法やプログラムの内容、駐車場はどこにあるのかといったものであったと聞いております。また本町の観光の問合せについてはどこでランチが食べられるのかといった問合せが多く、続いて観光スポット、その後にポロトの森のキャンプ場、日帰り温泉、土産はどこで売っているのかという問合せが多くあったと聞いております。

1日当たりの最高来場者数ですけれども、9月20日に2,418人、インフォメーションセンターに来場がありました。また、観光インフォメーションセンターの売上額です。11月末までで4,383万7,967円となっております。現在、棚卸しをしておりますので総利益は今月中に出るかと思っております。続きまして、大型バス駐車場収入ですけれども7月12日にオープンして11月末までで473万3,000円の収入で台数にすると2,444台となっております。当初計画は9,000台となっておりますので、コロナ禍の中で計画どおり進んでいないという現状がありますけれども、今後誘客活動に努めて台数を増やしていければと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 続きまして、2項目めのロングランイベントについての説明を求めます。太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 調査項目2、ロングランイベントについてでございます。資料2を御覧ください。7月12日のウポポイ開業日から、10月11日までの14週、計32日間にわたり毎週土曜日、日曜日、祝日に、しらおいポロトミンタラフェスティバル2020と銘打ち、各種イベントを開催いたしました。荒天のため2回中止はしてございますが、スタッフの検温やアルコール消毒液の会場内設置、ソーシャルディスタンスパネルの活用など新北海道スタイルに基づいた感染防止策を講じながら実施したところでございます。イベント期間中は近隣住民やウポポイへの行き帰りの立ち寄りなど多くの来場があり、ウポポイ開業との相乗効果が図られたと感じております。

出店いただいたアイヌ協会、お手伝いいただいた観光協会、商工会、町内の様々な事業者、胆振総合振興局、日胆地域戦略会議、多くの協力を得ながら無事イベントを開催できたと思っております。

す。また7月12日から8月末までは北海道で賑わい創出事業としてもイベントを開催して、連携を図りながら賑わい創出に努めたところがございます。日程等内容は記載のとおりとなっております。イベントの開催日の観光インフォメーションセンターの入場者数が4万6,693人となっております。また北海道の主催事業のイベントの来場者数が2万1,574人となっております。

○委員長（広地紀彰君） それでは続きまして、3項目め、地域DMO本登録に向けた取組状況についての説明を求めます。

太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 調査項目3、地域DMO本登録に向けた取組状況について、資料3-1、3-2に基づいて説明いたしたいと思っております。令和元年8月に白老観光協会が観光地域づくり法人（候補DMO）として登録されて以降、観光庁において登録制度の見直しや役割・取組内容を具体化したガイドラインが作成されるなど世界水準のDMO形成に向け、本登録の基準が厳格化されました。3年の期限内である登録DMOを目指すため、登録要件を満たせるよう各種取組を推進または計画しております。今、候補DMOは全国に119団体ございます。また本登録の基準が厳格化されたというところがございますが、外国人旅行者の誘客拡大の観点から高い水準に達成していること、Wi-Fiの環境整備だとかそのようなことが含まれるのかと思っております。

また、地域の創意工夫を生かした魅力的なコンテンツの開発強化ということで、地域の住民等を巻き込んだコンテンツ造成が求められるのかと感じております。また、改正になって候補法人になってから3年以内に本登録をしなければ、候補法人からも外れることとなり、より厳格化されたところがございます。観光協会としては令和4年の8月までに本登録を目指すように今後取り組んでいきたいと思っております。

続きまして、登録要件、取組内容でございます。登録要件は前回も説明しておりますけれども、5つの項目の登録要件を満たすことで、本登録にいけるということになっております。1つ目、観光地域づくり法人を中心とした観光地域づくりを行うことについての多様な関係者との合意形成でございます。令和2年2月7日に白老まちづくりDMO戦略協議会を設置いたしました。予定では4か月に1回程度開催する予定でしたが、コロナ禍の状況の中まだ1回の開催にとどまっているところがございます。次年度以降は本協議会の下にワーキンググループを設置して、個別の事項や方針について協議をする予定となっております。

続きまして、データの継続的な収集、戦略の策定、KPIの設定、PDCAサイクルの確立でございます。地方創生推進交付金を使った観光消費動向調査ということでアンケートを取って、このデータを出しているところがございますが、来年度はスマートフォンですとかGPS等を活用して、どこから来てどこに立ち寄って何時間白老町に滞在して白老町の後はどこに行ったかだとか、年齢だとか、そういう調査もしていきたいと思っております。そのデータを基にターゲットを設定し、具体的なプロモーションだとか誘客活動につなげていければと考えております。

続きまして③、関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーションの実施でございます。現在のコロナ禍の中ではございますが、まずは道内の誘客、続いて国内、国外へと順番に誘客の取組を進めていきたいと思っております。

続きまして④、法人格の取得、責任者の明確化、データ収集・分析の専門人材の確保でございま

す。現在、プロモーションにおける責任者は観光協会の事務局長が担っているのですが、実はマーケティングですとか、旅行商品の造成だとか、そこの専門人材が不足している状況でございます。ここについては、②で説明したデータを役場と連携しながら、データを分析した上で戦略を決めて、専門人材の活用については今後検討していければと思っております。

続きまして⑤、安定的な運営資金の確保でございます。町からの委託として白老駅北観光商業ゾーンの指定管理業務、白老駅舎の管理業務のほか、収益事業として観光インフォメーションセンターにおける物販等収入や大型バス駐車場管理収入がございしますが、先ほども申しましたが、コロナ禍の中で計画的には進んでいない状況ではありますが、有効的なプロモーション等をして収益の確保に努めていきたいと思っております。

続きまして、資料3-2でございます。こちらが次年度以降、本登録に向けた取組状況についてということで、より具体的に説明させていただきたいと思っております。ワーキンググループの設置ということで令和2年2月7日に地域DMOの戦略協議会が立ち上がったのですけれども、さらに掘り下げて個別のワーキンググループをつくって、例えば行政であれば観光振興や戦略、インフラ整備、アイヌ関連であればウポポイとの連携やアイヌ文化伝承・保存など、また観光関連等であれば体験滞在型の観光コンテンツの整備ですとか、このような形でより掘り下げて、観光客の具体的なデータを分析して観光客の属性や消費行動などを緻密に分析して、個々のニーズに合った商品やサービスを提供していく体制を構築したいと考えております。地域ならではの旅行商品を開発できればと思っております。

続きまして下です。来年中に地域限定の旅行業資格の取得を観光協会取得を考えております。今まで旅行業の資格がなかったものですから、ガイドの事業などがあったのですが。ガイドされる方にお金が入る仕組みだったのですけれども、観光協会はその取次ぎというだけで収入とはならなかったのですけれども、今後旅行業の資格を取ることによって観光協会も収入を得られる仕組みになっております。簡単に言うと募集型の企画旅行のツアー造成が可能だということで、観光協会が旅行の目的地、日程、宿泊、交通、観光などのサービスの内容を検討して料金を設定できるということです。それで募集ができるということなのでそのようなツアーを組めるということになっております。ただ、地域限定の場合、隣接する地域からの募集しかできない形になっております。例えば苫小牧市、登別市、伊達市あとは千歳市です。札幌市に限っては公共交通を使った場合は、そのような形で募集できるという形になっております。来年なるべく早い時期に地域限定の旅行業の資格取得を目指したいと考えております。

続きまして右側のおもてなしガイドセンターを設置したいと考えております。本年度中にある程度の方向性を持って、観光協会が事務局になって観光ガイドネットワーク（仮称）を構築したいと思っております。この担い手は地方創生交付金により3か年でガイド人材研修を実施しており、今年度終了したときに17名の登録をいただきました。その方々が人材となって活躍できる場の提供という意味合いもございします。まずは、観光協会が事務局となって旅行会社にPRなどをして、旅行会社を買っていただいて、講師を派遣することになるかと思っております。前段で説明しましたが、旅行業の資格を取ることによって、観光協会としてもガイドの旅行造成ができますので、そういう部分では幅が広がると思っております。

続きまして、取組内容のロードマップでございます。令和3年度です。4月におもてなしガイドセンターの設立を考えてございます。9月までに地域限定旅行業申請の準備を進めて、年内には旅行業の資格を取得したいと考えております。観光消費動向調査・分析・戦略策定は通年でやっていきたいと考えております。またDMO戦略協議会も4か月に1回程度開催するという事で計画どおり進めていきたいと思っております。続いて、下は令和4年度ということで、DMO戦略協議会の開催、ワーキンググループの設置・開催、観光消費動向調査・分析・戦略策定というのは通年で行って、専門人材の登用については慎重に検討していきたいと考えております。令和4年8月までにDMO登録申請を行うというスキームになってございます。

○委員長（広地紀彰君） それでは続きまして、4項目め、民間活力ゾーンの検討状況についての説明を求めます。

鵜澤経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（鵜澤友寿君） それでは、調査事項4の民間活力ゾーンの検討状況についてご説明いたします。資料4を御覧ください。1番の経過と現状についてであります。これまで2回実施したプロポーザルがいずれも不調に終わり、その後、民間ディベロッパーへの資料提供や一括リリース方式の検討等を行ってまいりましたが、現在も参入決定には至っていない状況であります。しかしながら、ウポポイ開業後において数社から個別に問合せを受けていることから、現在それぞれの事業者と協議を重ねているところであります。

2番の現下の課題についてであります。最大の課題は、新型コロナウイルス感染症の拡大により飲食・物販・宿泊事業者が軒並み打撃を受けまして、まずは経営基盤や既存事業の体制の維持等が急務となっているため、新規投資意欲の低下が顕著となっている状況でございます。そのことから誘致活動の停滞を招いているものと捉えております。

続きまして、3番の今後の方針についてであります。今後につきましては現下のコロナ禍の推移を見極めながら、行政整備区域との相乗効果を図り民間活力導入区域の一体的な整備を目指す事業者の誘致活動を継続するとともに、現在問合せを受けている事業者と参入条件についての協議を重ねるなど、早期整備に向けて取組を進めます。なお現在の参入条件における課題といたしましては、高さ制限、インフラ整備全般の負担、景観ルールの在り方、定期借地権契約の是非などが挙げられます。また現在町内の各種団体から要望事項が出ておりまして、観光協会からは道の駅の登録や多目的ホール等の整備、商工会からは町内事業者による物販・飲食提供施設の整備、観光商業協同組合からは白老独自の土産品販売施設の整備等の要望が出されております。

○委員長（広地紀彰君） ただいま説明がありましたが、本日は項目ごとに質疑を受け付けます。

1項目め、観光インフォメーションセンターの入込状況等について、資料は1番となっておりますが、これに関わる質疑がございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

次に、2項目めのロングランイベントについて、質疑がございましたらどうぞ。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

次に、3項目めの地域DMO本登録に向けた取組状況について、質疑がございましたらどうぞ、
ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

次に、4項目めの民間活力ゾーンの検討状況について、質疑がございましたらどうぞ。

3番、佐藤雄大委員。

○委員（佐藤雄大君） 団体からの要望事項で、道の駅の登録についてとありますが、道の駅化についての考え、方向性についてお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 道の駅の関係につきましては、実際にインフォメーションセンターの整備についても当初は道の駅対応型というのも想定されておりました。また、平成23年、24年には観光協会の中でも検討がなされてきたという経緯がございます。要望事項ということでございますので、すなわち我々が今、道の駅登録を目指しますということにはなかなかなっていないだろうと思っておりますが、この民間活力導入ゾーンを含め、ポロトミンタラ全体を含めて、コロナの中であって集客を増やしていく方法という部分や、あとはインフォメーションセンター自体がおおむね道の駅に近い施設であろうという認識はしておりますので、少しそういった部分の可能性については、内部で検討してまいりたいと思っております。いろいろと道の駅登録に向けての諸条件、課題等もあると思います。実現可能かどうかも含めて今後検討してまいりたいと考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 3番、佐藤雄大委員。

○委員（佐藤雄大君） ポロトミンタラにつきましても道の駅と同じような機能というのは分かるのですが、若い人など使う人は特に白老に来たときに、あるいは白老町を検索するときに、ポロトミンタラの検索の仕方が難しいというか出てこないのです。白老町観光で調べると観光インフォメーションセンターのことが出てきて、その中で駅北商業施設のポロトミンタラとは書いているのですけれども、それが分かりづらいというのが1点あります。これが仮に道の駅というのがつくだけで、白老道の駅、で検索する人はかなり自分が違う市町村から来たときにそのように検索すると思います。白老道の駅、で検索すると周辺の道の駅の施設が出てきてしまうのです。例えば苫小牧とか大滝とかというところが出てきてしまうので、道の駅という名前が前につくだけで違ってくるのかと感じています。道の駅ユーザーも道内では2018年に3,900万人くらいで、道の駅にするとスタンプリーというのが出てくると思うのですけれども、このスタンプリーの利用者だけでも4万人くらい北海道でいるみたいです。私もそうですし、ほかの町民の方もポロトミンタラを紹介するときにも、道の駅的なものという説明をしてしまうことがあるのです。ですから、いっそのこと道の駅にしてしまうほうが、いろいろな部分のメリットがあるのかと思い質問いたしました。その件についてもう一度お考えを伺います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ポロトミンタラあるいは観光インフォメーションセンターについ

ては、皆様のご理解とご協力の中で整備させていただいた状況になってございます。やはりコロナという現状がありますけれども、ウポポイについてはまずは100万人の来場者を目標にしていかなければいけないといった中では、観光インフォメーションセンターもウポポイのおおむね1割ないし2割くらい下回る入込みという状況でございますけれども、それがもし道の駅というのがあって、ウポポイの前にあるということになれば、検索、アクセスの仕方、そういった部分の知名度とか求心力も高まるというのが予想されるのかと思っております。そういった中では相乗効果を高める上でも、知名度を高める上でも、来場者の目的としていただくためにも、もし検討できるのであればそういった部分の検討をしてみたいと思います。実現の可能性については検討してみたいと思っております。いろいろと諸課題等々ございますのでそういった部分もご意見を伺いながら方向性としては検討してみたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

12番、長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 団体からの要望事項で、町内事業者による物販・飲食提供施設というところで質問させていただきます。今までポロトの博物館で木彫りや刺しゅうなどをされて観光でなりわいを営んでいた方たちも、このようなところで木彫りの実演をしたり刺しゅうの実演をしたり、このような場を設けてそこで出店するということを期待している方たちもたくさんいらっしゃいます。そういう中でなかなか民間活力導入が進んでいかないというところでは、例えばこれが決まらなかった場合まちとして建物をつくりリースという形で業者に貸し出すことや、チャレンジショップという形で若い人たちをまちで育てていこう、守っていこう、そして独立していただくというそのような考えはあるのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） お土産屋さんとかの物販施設については、これまでもいろいろとご意見があって今回このようなご要望をいただいています。それと併せて民間活力導入ゾーンの説明の中にこのような要望項目を入れさせていただいていますけれども、行政の整備区域、そういったポロトミントラ全体をこういった部分で検討できないかということで、ここの部分に出させていただいたということでご理解いただきたいと思います。

そういった中で要望とともにいろいろご意見があると認識しております。町が器をつくって貸していく方がいいのかどうかということです。これまでは民間活力導入区域の中である程度施設をつくって入っていただくとしていました。その家賃の関係とかを含めるとなかなか地元事業者が入れないのではないかとこともございますので、建物の整備の方法も含めてこの後検討はしてみたいと思っております。必ずしも町が整備をしてということでは今はありませんけれども、そのようなご要望の声には耳を傾けるといいますか、検討していかなければいけないのかと今は思っています。器を用意することが正しいことなのかというのは、改めてご意見等いただきながら内部で検討させていただきたいと思っております。ただそういった出店や活躍の場面という部分については十分認識しているとご答弁させていただきます。

○委員長（広地紀彰君） 12番、長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） そのところは理解いたしました。本当に何らかの形で出店をして、

今まで観光業でなりわいを営んできた人たちが活躍する場を持っていただきたいのです。そして本当にコロナの関係で収入がなくなって、落ち込んで気力がなくなっている方もたくさんいらっしゃいます。コロナの収束を見据えた中で、まちとして事業者を守るためにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今のご意見については実際にこれまでの業態ですとか、今後の支援ということも含めてコロナの今の状況を考えますと、コロナの経済対策をいろいろさせていただいていますけれども、そういった部分も含めながらどのような支援の仕方があるのかを考えていかなければいけないと思っていますので、様々な部分で検討させていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 民間活力導入区域の関係でございます。富川課長が説明したとおりなのですが、資料4にありますけれども現状の参入条件における課題、団体からの要望事項、これらを一歩一度内部で検討した中で方向性を定めながら進めていきたいと思っています。方向性がある程度出ましたら、また議会にはご説明をさせていただきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 13番、氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 長谷川委員の質問に関連して話を聞いていただきたいのですが、民間活力導入ゾーンについても若い人たちのチャレンジ的な店を支援していけるようなまちの姿勢というのが私は大切だと思います。富川課長から説明のありました、行政がものを建てて起業家の人たちに貸すことがいいのかどうかということも含めて検討していただくということでご答弁いただいています。白老町の人口減少下において、このウポポイを飛躍の大きなチャンスと捉えるのであれば、若い人たちがこれから白老で何かができるのではないかという思いを抱かせるような政策につなげていっていただきたいと思います。

前段の部分については今まで営んできた方々の意欲を消さないような形でやっていただければと思いますが、一つつけ加えて、やはりこの人口減少下を白老町としてどう考えるのかを捉えながら、今後の進め方を考えていただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 人口減少を含めた若い人たちの要望といいますか、活躍の場所ということなのですが、人口減少に対する対策の一つとしてウポポイを核とした政策というのは大事なことだと思っています。若い人たちが進出したいということに対しても、町としてはできる限りのことをしていきたいと考えていますので、そのようなことも含めた全体の政策の中で進めていきたいと考えています。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

5番、西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 今のところの話なのですが、駐車場がどのような状況になるのかというのが一番気になるのです。今まで集客してこられて、イベントをやっけてこられて、実際にポロトミンタラの駐車場の利用状況がどうであったのか。私が見ている感じではどうしても狭いかというイメージがすごくあったものですから、ここを民間の方々やいろいろな団体とかの方が

考えられるのでしようけれども、それだけで果たして駐車場が足りてくるのか。GoToキャンペーンも来年の6月まで政府は続けるという考え方ですので、多分コロナの状況も年が明けてある程度落ち着いてくると、修学旅行の方とかいろいろな観光客の方を誘致できると思うのです。そのような中でここをつくっていくのに当たって、きちんと駐車場を整備しないと近隣住民の方々に迷惑がかかるのが一つと、せっかくやってもお客さんが駐車できないからということで帰ってしまうのでは何の意味もないわけですから、その辺整備の仕方、考え方をお伺いしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 駐車場の関係については7月12日のウポポイ開業後、我々も合わせてロングランイベントを毎週末にさせていただきました。事故なく、コロナの関係もなく事業ができましたこと、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。慣れない状態でどれだけの入込みがあるのかも予想がなかなかできない中での状況でありましたので、そういう中では7月12日のオープンとその翌週は、やはり駐車場が日中はずっと満杯になって事故があってはどうかということで、その週末については急ぎ警備員等の配置もさせていただいて、誘導などの対応もさせていただきました。ただ事業が進んでいくに当たっては比較的駐車場が空いている、空いていないというのは皆さんにしっかり見ていただいて空いているところを見つけていただいて、ある程度うまく出入りができたのかと思います。入り口のところに何台も並んでという事態はあまり発生しなかったとっております。

この後実際に今のインフォメーションセンターにプラスいろいろと何かしらの機能が出てきたときにはプラスの要素が強くなると思います。コロナの状況にもよりますので、今はどうしても車で来場が多いということもあって、そこところは慎重に見極めていかなければならないと思うのですが、駐車場の過不足についても検討はしなければいけないと思います。駅北地区のミンタラの駐車場の整備は一定程度来場予測というか、必要台数を計画の中で出して、現在の83台という形になっています。民間活力導入ゾーンのところは、維持・管理、駐車場整備も含めてやってほしいということで、その部分は計画の台数には入っていない形になるのだらうと思います。もしそういった部分についてどういう方法で民間活用も含め、機能充実を図っていくかということになったときには駐車場の過不足というのは改めて議論の俎上にのせられてくると思います。そのような中では今回は北海道のご協力をいただいて、そのような根拠だとかの部分もありますので、支援もいただいたのですけれども、今後自分たちでやらなければいけないとなると一定程度町の財源で行うのか、ほかの財源があるのかどうかという部分を含めて、やはり財源的な部分の必要性をしっかりと見極めながら、ただ一方で民間活力導入ゾーンには何かしらの魅力的な出店ですとか機能というのを、そこを第一に目指していきたいと思いますので、その中で過不足、充足度合いというのを検討しながら整備についても考えていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 私もやはりこの半年くらいの間はかなりデータを集めることができたのかと思っております。その中でぜひ検討していただきたいと思います。一つは、考え方として業者の方の駐車場、働いている人の駐車場、そのような人たちと観光客の駐車場をきちんと分けて考えることも必要なのではないでしょうか。そこに働く人たちはこれから寒くなって雪が降ったとしても、

夏になって草刈りするにしても、自分たちである程度できるようなところであれば車が止められる場所はいいのではないかと思います。やはり観光客にはきちんとした駐車スペースが必要なのだらうと思います。せっかく一生懸命頑張ってるやろうとしているのですから、それをサポートする一番大事な部分だと思いますので、柔軟に考えて対応していただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 改めて、ロングランイベントの最中も実際には、お客様には観光インフォメーションセンター前の駐車場をご利用いただいて、出店者の皆さんには民間活力ゾーンの砂利敷きのところにある程度とめていただくなど、そのような区分けはしてまいりました。また、ピーク時とかそういったときには、第2駐車場に関係者はとめて、インフォメーションセンターはお客様用という手はずはしてまいりました。ウポポイへ行かれるすみ分けというのは課題にはなるかと思っているのですけれども、基本的にはお客様がストレスなくお使いいただけるよう、運用上の部分についてもしっかりやってまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員からの質疑をお受けします。

8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） 先ほど佐藤委員が質問された道の駅についてお尋ねをしたいのですが、今はやはりどうやって全国発信をするのかということでは、個々の予算で観光の関係でチラシだとかいろいろな宣伝をしています。私はそういうことよりも、この道の駅という名前、冠を付けることが全国的に言えば、ものすごく大きな影響があるのではないかと思うのです。国にも本当に働きかけて、早急にこのところができないものかと思うのです。それは安平町の例などを取っても明らかです。ですから、そこで設定するとしたら何が必要なのか、設定要件です。

町が取り組むことと、北海道や国が取り組むことの内容を押さえているのでしょうか。そこをクリアするのにどれくらいの状況、中身があるのかということが1点です。それからメリットとデメリット、これをはっきりさせるということです。これを全国発信することによって、ほかの効果とは全く違う効果が得られるのではないのでしょうか。今、観光客の皆さん車で来る方はほとんどインターネットで調べて来ています。ですから、どこに道の駅があるのかというのは本当によく知っていますから、そこでの白老町のアピール具合というのは非常に大きいと思うのです。そのような点で中身とメリットとデメリットを調べた範囲で結構ですからお願いしたいです。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 道の駅の登録要件といたしましては当然接道して道路の休憩施設ということになりますので、まずそれが大前提になります。機能的なことではいいですと地域振興事業といいますか、今でいうと物販ですとか地元産品を取り扱っているだとかということで、ある程度クリアできるのかということになります。あとは駐車場がおおむね20台程度、それから24時間のトイレがおおむね10基程度、それと子育て支援施設ということで授乳施設・おむつ替えといった部分が単独であるのが望ましいということです。公衆電話が必要ということと、道の駅、道路の関係ですので、道路情報の発信機能というものがおおむね必要要件ということになってくるかと思いません。

道の駅については単独型と道路管理者との一体型とありますので、例えばインフォメーションセ

ンターの場所で設置するとなると、接道しているところが道道になりますので、それを北海道と一緒にするのか、あくまで中のほうということで町が単独で目指していくのか、それは設置する場合の協議になってくるのかと思っております。

今の要件からいいますと、24時間トイレが既にございますので男子のところが大便秘器という形で考えて10基とするのならば、今多目的便器も含めて6基となりますので、4基ほど不足するのではないかと思います。道の駅をもし設置するのであれば4基ないし24時間トイレが必要になるだろうと思っております。子育て支援施設、おむつ替えだとか授乳スペース、公衆電話、それと道路情報についてはW i - F iがあれば可能ということで伺っておりますので、子育て支援とトイレの部分が要件を満たすためには、プラスして整備が必要になってくるのかと思っております。

それからメリット、デメリットの関係ですけれども、佐藤委員がおっしゃったような部分を含めて知名度の関係というのは非常に大きいだろうと思えます。北海道では道の駅は全国に比べて距離が長いというのも含めて多くございますので、そういった部分で道の駅を目指してスタンプラリーをされるという方で、道の駅が目的になってそこから町内に波及していく可能性があるという部分では、非常に大きなメリットかと思っております。一方でデメリットということになりますけれども、昨今駐車場でキャンピングカー等が車中泊をしていることがテレビなどでも取り上げられる機会があったと思っておりますが、それ自体が止まっていることがいいとか悪いとかではなくて、やはり24時間開放し一般的には皆さんが睡眠されている時間帯にそのような方々が道の駅に集まって、もしかすると周辺で騒がしいことになるかもしれないだとか、あるいはマナーの問題だと思いますけれどもごみの散乱ですとか、そういった部分のデメリットというか課題になろうかと思えますけれども、そのような部分があるかと思っております。

ただ、現状町といたしましては24時間のトイレは台数が少ないのですが既に稼働しているということになると、例えば最低限あと4基足してつくったときに、そこが現在の周辺環境に天と地がひっくり返るくらい甚大な変化を与えるかというのと、そうではないのかと思えます。ただ増えることによって当然今よりは騒音などの課題はリスクという部分では高まる可能性はあるかと思えますが、一応そのようなメリット、デメリットが現状考えられるところかと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） よく理解できました。要するに今もう動いているわけです。たくさん使っているわけですから、駐車場が満杯になったこともあるわけです。そういう状況なのです。だから今の延長線上なのです。あとはこのトイレ4基と授乳施設をどこのお金でどれくらい早くできるかということです。そのように現実的に物事を考えないと、まちが政策を打つというのはこれから検討して考えますというレベルの話なのかということなのです。

要するに周知するためのお金を観光協会も含めてたくさん使っているわけです。それをこれに取って変えることができる可能性はないのか。メリットとデメリットを聞いたということは、デメリットが非常に大きいという中で実施するということは問題があると思うのです。今の延長線上でできる中身なのです。そういうこと言えば、例えばトイレのあと4基、これは北海道がつくった部分もあるからなかなか大変かと思うけれど、授乳施設などは国や北海道のウポポイとの関係の中でお金を引っ張られないのかどうか。先ほど言ったようによく分からないで聞いているので、国の単

独か北海道との共同で道の駅を設置するのかとか、共同にした場合にお金を引っ張ってくることはできないのかとか、そのようなことを考えて来年の早いシーズンに合わせて考える必要があります。政策というのは時期を逸したら駄目なのです。100万人を集めるわけですからそのときに乗らないと駄目なのです。そのようなことと言えば、検討するというのは言葉としてあるのですが、本当にそのところがクリアできれば、今してくださいというのではなくて、そのところは北海道との関係や国との関係で、補助金を引っ張ってできるのであれば、政策的に前に進めるというその姿勢がまちにないと、政策をつくっていくことにならないのです。後で考えてやるのならいくらでもできるのです。2年後にできてもウポポイに人が来なくなってしまっていたら全然意味がないわけなのです。そのようなことをよく考えて道の駅をつくってほしいのですが、この2つの部分について、つくるとしたら今私が言ったようなことは考えられないですか。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 道の駅の関係についてです。大淵委員が言われた部分については、今もう既に施設としては動いているということです。動いているので、そのようなことを利用しながら、道の駅という知名度のあるものにしていきたいということについては、国のほうは開発局が登録いたしますので、そことの打ち合わせ、接道している北海道との打ち合わせ、これはどうしてもしていかなければ駄目ですし、その機関の考え方というのはどうしても出てきますのでそこを協議していきたいと考えています。

早いうちという部分ですけれども、それは時間をたくさんかけなければ結果が出るということではないと思いますので、国とか北海道との協議は、それ以降の費用の部分についてはまた別の話になるのでしょうか、そういった道の駅をつくるための条件の確認というのは早急にしていきたいと考えています。それに併せてどのようにできるのか。難しい部分があって駄目なのか、そういったこともはっきりと判断していきたいと考えています。

○委員長（広地紀彰君） 8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） よく分かりました。それで協議していくと町がトイレの要件と授乳の要件を満たせば、例えば協議の中で駄目だということがあるのかどうか。その条件を満たせば道の駅をつくれると言っているわけですから、それはなるべく国や北海道にお金を出してほしいと思いますが、もし最悪の場合そのようにしたら可能であるということでもないのですか。国と北海道との協議とはそのようなものではないのですか。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 国との協議の部分はトイレだとか授乳施設、どちらが優先かは別にしても、そういったものがあればいいですという返事を今はもらっていないのです。今の段階で大丈夫ということも言えませんので、その部分については確認して進めたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員からの質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者〕

○委員長（広地紀彰君） では私から1点なのですが、現状の参入条件等における課題といったことで私も経営陣の一人なのですが、もしですけれども今後進出企業の希望があった場合、この辺りをもう少しある程度柔軟に対応できないかということです。具体的に一番気になるのは定期借地権

の契約なのです。これは定期借地権となると決められた期限で町に返還しなければいけません。そうすると金融機関からの資金調達が相当大変です。また敷地が3分割されていて、その敷地の中を通る園路、敷地内通路においても全部進出企業でということです。そこは多少分かるのですけれども、3分割されているので自分の区画だけを整備して、では残りの2区画は話し合って決めるのかといった部分もあります。上下水道も電柱も、今のところ近くから民間企業が敷設しなければいけないといった部分で、給水管一つをとっても相当程度の距離が、おそらく道道の下辺りを本管からの給水管が通っていると思うのですが、そういった部分がいろいろと出てきます。これはまだ具体的な話は今のところ進んでいないということです。今後ということになります。ほかの部分についてこの課題に対応していく考え方を1点だけお伺いしたいと思います。

富川経済振興課長。

○**経済振興課長（富川英孝君）** ここに高さ制限ですとか、景観ルールの在り方、定期借地権契約の是非などもろもろ書かせていただきました。やはり、それぞれの出店事業者の実情に併せて課題がありますので、全部が全部当てはまるということではないと思うのですが、そういった現状の中で個別にご相談いただいているという中での協議では、例えば土地は売ってくれないかだとか、そのようなことも実際にはいただいております。今、言ったように資金調達の関係でいうと事業体の体力も含めて借地ではなかなか難しいと考えております。そういった部分も考えていかなければいけないと思っております。1回目は3分割でやりましたけれども、2回目についてはある程度あって、残りの2区画を1画という形にしました。そういった中では管理も組合をつくるというようなことで想定しておりましたが、なかなか今の段階では一つ一つが集まって出てくることも大変だということです。できるだけ面的に、一面でもしやっていたらいいのであればということも含めて一括リースでということも検討してきたということでございます。そういった中では3分割だとかという部分も面的にある程度整理できる可能性があるのであれば、それもいいのだろうと思っております。

あとは上下水道の敷設については、今言ったような道道から引いていただくということでありませぬけれども、今後先ほどの話ではないですが、町が何かしらの整備をする必要性があった場合や、多少その辺の融通を利かせることが可能になるという場合もあると思っております。今の時点で、必ずありますとか、こうしますというのは、大変申し訳ないのですがそのような答弁にはならないのですけれども、もろもろの参入条件をクリアしなければなりませんので、民活ゾーンにも賑わいを出していかなければなりません。そのためには町が何かしなければいけないのだろうかというところを総合的に検討しながら、そういった部分の条件を一つ一つ緩和できるものについてはしてまいりたいと思っております。

○**委員長（広地紀彰君）** 次にその他について何かその他で質疑・ご意見等ありましたらどうぞ。

4番、貳又聖規委員。

○**委員（貳又聖規君）** それでは、3点ほど伺います。まず今観光インフォメーションセンターで土曜日、日曜日、白老商業振興会が、商店街にお客様を回遊させるためにクーポン券を配っておられます。大変、素晴らしい取組、本当によく頑張っていると思っております。1点目、そちらにおける実績、効果はどのようになっているかお伺いします。

2点目でございます。その他で質問させていただくのですが、交通課題についてであります。今回コロナの関係もありましたから、なかなか来訪者も数の少ない中ではありますが、実際に通学路に大型バスがかなり入ってきます。朝の通学の時間帯などは、大型バスがかなりスピードを上げて入ってきます。下校時も公園通りを含めてかなり出ています。その中で、地域の声として道路標識です。通学路といったような、そういう声が私の耳にも入ってきておりますので、行政として教育委員会や建設課、生活環境課と一緒に、そのようなことを協議することをしているのかどうか。実際は踏切前もかなり渋滞が起きていますから、そういったところの改善をどのように考えているのかをお聞きします。

それから3点目です。入込数です。目標値としては将来的に300万人ということ掲げています。それに向けた手応え的なもの、今回駅北観光インフォメーションセンターが開設されたのでお客様に来ていただいておりますから、コロナ禍の状況はありますけれども300万人に向けた手応え的なこと、こちらをどのように評価されているかお聞きいたします。

○委員長（広地紀彰君） それでは暫時休憩といたします。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時15分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じ、委員会を再開いたします。

白杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（白杵 誠君） 観光インフォメーションセンターにおける白老商業振興会の活動についてでございますけれども、スタートは11月7日から毎週、ウエルカムチケットという名前で500円の商品券と商店街の紹介マップを来場していただいた方に配布して、駅北のお客様を南側、大町東町商店街へ誘導して商店街を盛り上げていこうということで商店街が活動されております。

今までウエルカムチケットの配布を5回しまして、最近寒くなっている中で非常にご苦労されて、かつ情熱的に商店街の方々も活動されていまして、私も非常に感動しているところでございます。当初、ウエルカムチケットについては商業振興会としては、配ったものの2割くらいを使ってもらえるのではないかと想定していたのですけれども、ふたを開けてみると65%以上くらいの回収があって、商店街の方々も苦労した甲斐があったと非常に喜んでいただいております。そこで使われる商店も特定の店舗に集中するというのではなく、幅広く飲食店等が多いのですけれども、いろいろところで使っていただいております。500円のチケットではあるのですが、500円分だけ買物をするということではなく、消費についてはしっかりと調べられていないのですけれども、商店街の方々に聞くと肌感覚では1人当たり1,500円から2,000円くらい使っていただいているのかということでチケットの3倍、4倍の効果がありこれからも観光インフォメーションセンターの場所を使って少なくとも年内は実施するとおっしゃっております。少々話がそれるかもしれませんが、商店街につきましては清掃活動もされ、もしくは今後またこのようなことをしようと非常に計画もある中で商業振興会の動きが活発になってきており、今後も非常に期待しているところでございまして、町といたしましてもできる限りの支援をしていければと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 私から2点目の交通課題ということでございます。現状、関係課において協議しているかということは特に行っておりません。ウポポイの開場に当たってまず教育委員会、あるいはPTAの皆さんにより開業前にバスの交通量の状態ですとか、その辺の確認をされているということで伺っております。今コロナの関係でいろいろなことが流れてしまい、絶対的な数字といいますかピーク時というのがなかなかないと思いますので、これについてはおそらく次年度以降、一定程度の時期に再度行われるのではないかと考えているところであります。

危険性の回避の部分では今年度になって第2駐車場バスの駐車場のところにこちらのほうで通学路という表示をさせていただきました。現在までに特段、道路が渋滞したとかという苦情は我々の耳には届いていませんが、隣接する若草の町内会では鈴なりにバスが並んだなどという部分も含めてのお声はいただいているという現状で状況を見極めながら、推移を見ながら必要に応じて協議、改善については検討してまいりたいと思います。渋滞の関係については事前に警察との協議ですとかもしておりますので、先ほど申し漏れましたので併せて言いますけれども、例えば道の駅とかですと、今の状態ですと渋滞の懸念があると思いますので、そのような部分も関係機関と必要に応じてしっかり協議してまいりたいと考えているところでございます。

3点目、観光入込みの300万人への手応えということで、これも返す返すコロナの状況においては目一杯皆さんが来ている状況ではないものですから、なかなか評価は難しいかと現状では思っております。上期の入込みで考えますと、このようなコロナ状況にあっても2.4%の前年対比増ということになってございますので、そういった部分で考えますとやはりウポポイの開業に伴って非常に期待度としては高いと思っております。我々が手応えを感じるというよりは、ウポポイという存在を大事にしながら、それに加えての様々な観光施策で観光入込み300万人に向けて取組を進めてまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 白老商業振興会の取組は想定以上の効果が出ているというところで、私はこのように地域一体となった取組、現状をいかに押さえながら、どう回遊を高めていくかという知恵を絞りながらこの取組はまさに私は、土曜日と日曜日に実際に商業振興会の皆さんがお客様を案内してお話している場面を見させていただきました。それを受け取ったお客様はそうなのですね。白老はこんなに魅力があるのですね。ぜひ行きます。というところを見せていただいて胸にこみ上げるものを感じながらおりました。

交通課題の関係は、富川経済振興課長の答弁がありましたけれども、本町付近で一、二か月くらい前に事故もありました。そういったところもあって、PTAも保護者の皆さんもとても心配されているところもあります。例えばそれが経済振興課には声が届いていないのかもしれませんが、教育委員会など、ほかの課には届いているかもしれませんので、ぜひそのような声を聞いていただきたいと思います。

そして、入込数300万人の関係なのですけれども、私がなぜこれを申したかという、仮に300万人の目標が入込数200万人台でも北海道の自治体の入込客数の数字でいくと白老町は10位以内に入ってくるのです。それだけの入込みがある自治体は観光室などを単独に持って強化していくという行政組織にもなっております。その中でやはり私は、今観光インフォメーションセンター、こちら

には観光協会のスタッフが日々頑張っています。先ほどの白老商業振興会のように地域一体となった観光政策など地域活性化策が求められると考えるのです。観光室をつくらなくても、例えば町の職員をそちらに派遣して、共に観光協会と地域活性化策や振興策を進めていく必要があると思っています。なぜならば観光協会会員以外の方々もたくさんいらっしゃるわけです。今回、地域DMOの組織体の中には一次産業からいろいろな業種が入っているわけです。そういったところでいくと、観光協会の中ではなかなかさばききれない部分も多々出てくるだろうと思います。そこにはまち全体を知る職員との連携が私は必須だと思うのですが、そちらについて理事者はどのように考えているかお聞かせください。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 私から職員の関係を答弁させていただきたいと思います。地域と一体になった、それから観光協会と役場も一体になったということの中で観光を進めていくということは重要なことと思っていますし、今観光協会に職員が派遣されているということではないですけれども、日頃から連絡を取り合いながら業務を進めているということです。改めて観光協会へという部分については人事の部分もありますので、ここの段階で言えないということをご理解いただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 建設課と教育委員会にも確認はして、ウポポイ周辺で苦情というものは今のところないというお話は伺っております。公園通りとかでは当然交通量が増えることなどがありますので、情報共有については密にして遅滞なく進めていけるような体制で進めてまいります。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員からの質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

これで協議を終了いたします。

次回、本特別委員会の開催日は、正副委員長で調整して通知することといたします。

ご異議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（広地紀彰君） ご異議なしと認めます。

◎閉会の宣告

○議長（広地紀彰君） それでは、これをもって本日の特別委員会は閉会いたします。

（午前 11 時 27 分）